



Vol.12

発行 2013年8月
動物愛護ボランティア
《ねこの会》

事務局：TEL/FAX 0263-36-2192

ねこは躰けられるか...? 岡田 英二

ねこの会を立ち上げた当時の長野県動物愛護会の活動は、飼い犬の適正飼養の啓発、ご自慢の愛玩犬の躰や芸を覚えさせる等の技術向上と、犬が中心だった。「動物は犬ばかりじゃなくてほかにも居る。犬同様に人間のそばにいながら、こんなにも猫は蔑るにされるのだから、少しは目を向けてくれ。」と、動物愛護会内にねこ活動の部門設置を懇願して門を叩いたのが、会との付き合いの始まりだった。本当のところは、地域ねこ共生モデル事業が開始されるに当たって、ねこの会では県に相手にされないために執った手段ではあったが、ねこ活動の確立の部分も本音ではある。

早速、会の中にねこ部会を立ち上げ、猫の飼い主に責任ある優良な飼育者になってもらうには、と策を講じたところ、溺愛型の餌を与えるだけの飼い主が圧倒的に多く、猫の適正飼養に開眼して貰いたいと願い「猫の相談会」を開くことにした。この時、愛護会には「犬の飼い方教室」があったので、猫にだって必要だろうと「猫の飼い方教室」の名称でスタートした。しかし、犬と違って猫では飼い方を教授するというよりか、むしろ困ったことに対する質問が多く、困り事への回答こそ、この活動にふさわしいだろうと、名称を「ねこのニャンでも相談」に変更して続けてきた。

相談会では飼い主への猫の適正飼養の啓発を中心に、猫飼育の困り事、ご近所との猫トラブル、新しく変わった法律の紹介、飼育に便利な手法や用具の紹介など、内容は盛り沢山で1時間30分の運営時間では足りないときもある。因みに、

- ・保健所は処分するところだし、市町村役場はお役人様だから気軽には聞けない。
- ・動物病院は高級で敷居が高くて、大した猫でもないし病気でも無いから行けない。

・猫の事で困っているけど、こんなつまらない事で相談するのも恥ずかしい。

・ペットショップで買った猫じゃないし、ちょっと聞きたいが、何処に行けば良いか分からない。

と悩んでいる人は沢山いた。猫の飼い主は、捨てられて迷ってきた猫を可哀想だと思って餌をあげたことから飼い始めた者が大半だ。手軽に飼える猫は、犬と違って登録もなく、狂犬病の注射もなし、滅多に病むこともないので、病院に通うという習慣もない。だから猫を飼うのは犬よりもずっと簡単なはずだ。しかし、相談会で耳にするのは、家の中だけで人間の生活空間を侵されないように上手く飼うにはどうしたら良いか？家を汚されるのは困るので、できれば外で飼いたいが、近所迷惑にならずに都合良く上手く飼えないか？ という話しが大半だった。そんなことはちょっと考えれば分かることだ

猫は、最終的な行動決定を自己で判断して行っているから、猫を躰けるのは容易ではない。それではどうするか？ 猫をよく観察し、猫の個体各々の習性を知り、猫の行動を予測する独自技術を飼い主が学ぶことが必要になる。生殖能力も有り、好奇心も旺盛、好きな物を食いたいという欲望も備わった野卑な猫を、安易に飼えると考えることが問題だ。奥山の中の一軒家でない限り、他人の迷惑を想像できないままで自由に動物を飼うことはあり得ない。知恵のある猫を飼い慣らすには、人間が猫に優る知恵を備えてから飼わないとならない。野良猫の母猫が誰の手も借りずに出産し、子育てする驚異の能力は、本能行動だけではなく、学習によって身につけた行動が多い。人間の若い母親が、たった一人の子供を育てられずに育児放棄すること自体、そこに知恵を使って行動する片鱗が少しも感じられない。

まして、糞尿被害などの苦情を出している飼い主には、猫を躰けるよりも飼い主を躰けることが先だと思われる。